

第3回北海道電力七飯発電所の漏水に伴う現地営農支援対策本部会議 議事録

日時 令和5年(2023年)11月10日(金)14:00~14:45

場所 渡島総合振興局 3階講堂

出席者 別添「出席者名簿」のとおり

- 議題
- 1 かんがい放流設備の復旧方針について
 - 2 令和5年産水稻の生育状況等について

議事

開会

○ 北海道渡島総合振興副局長

- ・北海道電力七飯発電所の漏水事故では、渡島平野土地改良区、北海道開発局、北海道電力をはじめ関係者の皆様におかれまして、番水の調整や河川からのポンプアップ作業など、並々ならぬご尽力により、この難局を乗り越えられたことに改めて敬意を表しますとともに、心より感謝。
- ・道と致しましても引き続き関係する皆様と、連携を密にして対応して参るほか、生産者様への営農支援などにしっかり取り組んでいく所存。

冒頭発言

○ 渡島平野土地改良区理事長

- ・関係者の迅速な対応により、天候にも恵まれいろいろな好条件が重なり、まずまずの収穫見通しとなったことに安堵。
- ・皆様にご心配をおかけしたが、それ以上のご支援とご協力いただいたことに、心より感謝。

(1) かんがい放流設備の復旧方針について

○ 北海道電力株式会社

- ・七飯発電所のかんがい放流施設の損傷の発生により、かんがい用水を土地改良区様、組合員の皆様にお届けすることができなく、大変なご苦勞とご心配をおかけしたこと深くお詫び。
- ・土地改良区の皆様をはじめとして、関係各位の厚いご支援をいただき、なんとかここまでくることができた。改めて、この場をお借りしてお礼。
- ・灌漑放流設備は、発電停止時における最大放流量(4.5 m³/s)を放流できる、水圧鉄管から分岐するルートとし、2024年4月下旬までに新設。
- ・また、灌漑用水の安定供給に万全を期すためのバックアップ設備として、今回損傷した灌漑放流設備を、2.0 m³/s程度を放流できるよう2024年4月下旬までに改造。
- ・発電所のリプレース工事を実施しており、最大13 m³/s放流できる設備が2026年4月に完成する予定。発電所を使って発電放流する設備を復旧して、本復旧としたい考え。
- ・以上の工事を不退転の覚悟で一日でも早く完成させる。
- ・関係各位の皆様とは、引き続き内容を共有し連携したい考え。

○ 渡島平野土地改良区理事長

- ・来年の通水に間に合わせるとの北電の決意を聞き、信じているのでよろしくお願い。
- ・稲作農家は例年になく苦勞をしたが、お互いに協力して番水に取り組むなど相互扶助の精神で乗り越えることができた。
- ・このような出来事を糧にして来年度の米作りに邁進したいと思いますので、今後とも関係各位の皆様方の絶大なるご支援とご協力を切にお願い。

(2) 令和5年産管内水稻の生育状況について

○ 技術普及課(道南農試駐在)、渡島農業改良普及センター

- ・ 水稻は比較的順調に生育。
 - ・ 今年は気温が高く推移したこともあり、深水管理を徹底する必要がなく収量への影響はなかったと考えている。
 - ・ 一方、猛暑等の影響で白未熟粒が例年より多く発生。
 - ・ 一部ほ場で発生した倒伏も白未熟粒発生の要因の1つと見ている。
 - ・ 漏水事故の影響を受けた地域と管内他地域を比較し収量や品質に大きな差はないと農協から聞いており私どももそのような認識。
- 北海道農政事務所函館地域拠点
 - ・ 9月25日現在の予想収穫量による、渡島・檜山管内の米作況は106の「良」の見通し。
 - ホクレン函館支所
 - ・ 米の集荷状況は、高温の影響により白未熟粒が例年より多く、加工用米等へ2等米を入庫する動き。
 - ・ 気象経過の影響等を受けて、タンパク別の基準品率については若干低いというような状況。
 - ・ 一方、アミロースは例年より低く非常に良食味となっており自信をもって販売している。
 - ・ 各農協及び生産者の方々から伺っている中では、収量が落ちているというようなコメントは聞いていない。
 - ・ 高温の影響を受けて、若干、白未熟米が多かったということで、農協では調製に苦労されていると聞いている。

閉 会

- 北海道農政部農業施設管理課長
 - ・ 多くの関係者のご尽力により、無事、出来秋を迎えることができ、感謝。
 - ・ 北電は復旧工事の進捗状況について、適時・適切な情報提供に努めるようお願い。
 - ・ 道としても本件への対応を教訓とし施設の適切な管理等に向け、関係者と連携して対応してまいります。